

「新・うまんちゅの森づくり（沖縄県森林・林業アクションプラン）」

～ 100年後の未来につなぐ森づくりをめざして ～計画期間：令和6～13年度（R6.3月策定）

【趣旨】

- 県では、将来のあるべき沖縄の姿を描いた基本構想である「沖縄21世紀ビジョン」を策定し、同ビジョンの実現を目指して計画の基本方向や基本施策を示す「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」、「新・沖縄21世紀ビジョン実施計画」、「新・沖縄21世紀農林水産業振興計画」を策定している。
- また、森林法に基づき策定される全国森林計画に即して、民有林について県内の3森林計画区別に地域森林計画を策定している。
- 「新・うまんちゅの森づくり」は、上記の各種計画と整合を図り、本県の森林・林業の各施策の推進方向及び展開を示すとともに、施策の具体化のための指針となるものである。



課題、新たな視点

- 課題
 - ■ 森林資源
 - 森林の蓄積は増えつつあるが、全国と比べて低い。
 - 亜熱帯性の植生や所有形態の違いから、全国とは異なる課題がある。
 - ■ 産業振興
 - 生産地の一部には、世界自然遺産登録地があり、自然環境に配慮した森林施業がより一層求められる。
 - 多様な樹種で構成されるため、利用用途の拡大が期待される一方、加工技術の確立は途上。
 - 流通量が少ないため、認知度向上が必要である。
 - 木材：安定供給、ブランド化の確立、高付加価値化
 - きのこ類：価格競争や栽培資材不足、施設老朽化の更新
 - ■ 担い手の育成・確保
 - 従事者（森林組合作業班員等）の高齢化、施業技術の継承
 - 従事者（林業・木材産業）の所得向上、労働負荷の軽減

適正な森林管理と持続的的林業経営の構築

施策方向

1. 沖縄の特徴ある豊かな森林資源を生かした、環境と調和した持続的可能な林業生産活動、計画的な森林・林業の振興、新たな森林利用の推進。
 - ⇒ 施策展開1
 - 施策展開2
 - 施策展開4
 - 施策展開6
2. 森林の適正な保全・管理を通じた、森林の持つ多面的機能の維持・増進。
 - ⇒ 施策展開5
3. 持続的な林業生産活動を図るため、林業従事者の所得向上、就業環境の改善を行い、担い手となる林業事業者や林業後継者等の育成の推進。
 - ⇒ 施策展開3
 - 施策展開4

目標数値

基準（R2年度）→ 目標（R13年度）	
林業産出額	： 14.8 億円 → 16.2 億円
木材の生産量	： 6,212 m ³ → 7,024 m ³
林業従事者数	： 513 人 → 536 人
きのこ類の生産量	： 1,388 トン → 1,436 トン
森林整備面積	： 525 ha → 543 ha

施策展開

- 施策展開1 おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化
1. 林産物の生産振興
 - (1) 県産木材の生産振興
 - (2) 特用林産物の生産振興
 - (3) 緑化木・造園木等の生産振興
- 施策展開2 多様なニーズに対応するバリューチェーンの強化
1. 農林水産物の輸送コストの低減対策及び総合的な流通の合理化
 2. 食品産業など他産業との連携による農林水産物の付加価値向上
 3. 地産地消等による県産林産物の消費拡大
- 施策展開3 担い手の育成・確保と経営力強化
1. 担い手の育成・確保
 - (1) 新規就業者の育成
 - (2) 多様な担い手の育成
 2. 農林水産業の経営安定対策の充実
 - (1) 金融制度
 - (2) 共済制度
 3. 農林漁業団体の組織強化を通じた力強い経営体づくり
 - (1) 経営感覚に優れた担い手の育成
 - (2) 農林漁業団体の組織強化
- 施策展開4 農林水産業のイノベーション創出及び技術開発の推進
1. デジタル技術等を活用したスマート農林水産技術の実証と普及
 2. 多様なニーズや気候変動等に対応した品種の開発と普及
 3. 地域特性を最大限に生かした農林水産技術の開発と普及
 - (1) 試験研究
 - (2) 技術指導
- 施策展開5 成長産業化の土台となる農林水産業の基盤整備
1. 自然環境に配慮した森林及び林業生産基盤の整備
 - (1) 自然環境に配慮した森林施業
 - (2) 亜熱帯海洋性気候を生かした早生樹等による森林づくり
 - (3) 森林の持つ多面的機能を持続的に発揮するための適正な森林整備
- 施策展開6 魅力と活力ある農山漁村地域の振興と脱炭素社会への貢献
1. 地域資源の活用・域内循環の創出による地域活性化(各種ツーリズムの推進)
 - (1) 森林の総合利用の推進
 - (2) 森林公園等の整備

「新・うまんちゅの森づくり（沖縄県森林・林業アクションプラン）」

～100年後の未来につなぐ森づくりをめざして～計画期間：令和6～13年度（R6.3月策定）

施策展開1 おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化

1. 林産物の生産振興

(1) 県産木材の生産振興

- 家具材や建築県産木材などの利用用途の拡大により県産材の利用を推進する。
- 森林認証等の取得・更新等、加工及び流通の過程のCoC認証の取得・導入を支援する。

(2) 特用林産物の生産振興

- しいたけやさくらげは、菌床栽培技術の普及・指導を行い、新規従事者の育成・定着に取り組む。
- きのこ類の生産施設の老朽化のため機器設備の更新等の支援を行う。
- きのこ類以外の特用林産物は、継続的に資源を利用できる仕組みにより地域振興に結びつく生産体制の整備を図る。

(3) 緑化木・造園木等の生産振興

- 研究機関で開発された育苗方法について、新たな育苗技術を民間に普及し、生産振興を図る。
- 優良な林業用種苗の確保ため、林業種苗法に基づく登録制度を促進する。



施策展開4 農林水産業のイノベーション創出及び技術開発の推進

1. デジタル技術等を活用したスマート農林水産技術の実証と普及

- ドローンやGIS等の新たなICTを活用したスマート林業の実証・普及を図る。
- 森林クラウドシステムによる市町村及び林業事業者との森林情報の共有化を進める。

2. 多様なニーズや気候変動等に対応した品種の開発と普及

- 成長が早く、優良な材を生産するため、早生樹の優良個体の選抜育種・育苗技術の開発に取り組む。
- 松くい虫に対する長期的な防除技術として抵抗性リュウキュウマツの試験研究に取り組む。

3. 地域特性を最大限に生かした農林水産技術の開発と普及

(1) 試験研究

- 生物多様性や森林環境の保全への配慮と林業活動の両立を図るための調査・研究を行う。
- 県産木材の保管・乾燥・加工技術の確立、未利用・低利用樹種の材質改善の研究を進める。

(2) 技術指導

- 先進的事例等の収集、データベースの整備充実を図り、普及組織と連携し技術指導を推進する。



施策展開2 多様なニーズに対応するバリューチェーンの強化

1. 農林水産物の輸送コストの低減対策及び総合的な流通の合理化

- 出荷コストの負担軽減を図る事業の活用により、流通の合理化の支援をする。
- 木材については、川上・川下間の情報のネットワーク化を推進する。

2. 食品産業など他産業との連携による農林水産物の付加価値向上

- 森林環境教育や木を使う意識の醸成によるカーボンニュートラルの実現を図る。
- 「沖縄県ウッドスタート宣言」を契機に、多様な関係者と連携・協力し、木育キャラバンを展開する。

3. 地産地消等による県産林産物の消費拡大

- 公共建築物における木造化・内装木質化の推進、民間の建築物への波及効果を図る。
- きのこ類等生産者団体等に対して、食品表示法等に基づく食品表示の適正化を推進する。



施策展開3 担い手の育成・確保と経営力強化

1. 担い手の育成・確保

(1) 新規就業者の育成

- 新規就業者等に対して、雇用情報を提供し、マッチングを図る。

(2) 多様な担い手の育成

- 建設業、造園業等の異業種など多様な林業の担い手として地域の雇用確保を支援する。
- 新規就業者として、女性や外国人の受入れの取り組みを支援する。
- 市町村職員を対象に、森林経営管理制度の運用に関する実務的な研修などの技術支援等を行う。

2. 農林水産業の経営安定対策の充実

(1) 金融制度

- 林業・木材産業改善資金による中・短期の資金融資への支援を行う。

(2) 共済制度

- 台風等自然災害による損失を補てんする共済などの収入保険への加入促進に取り組む。

3. 農林漁業団体の組織強化を通じた力強い経営体づくり

(1) 経営感覚に優れた担い手の育成

- 事業主が行う雇用管理の改善、経営管理能力の向上や事業合理化の促進等を支援する。
- 人的資源を適切に管理・活用する観点から「働き方改革」の取り組みを支援する。
- コスト意識や内部牽制機能の強化を促進するなど、森林組合の経営管理体制の整備を支援する。

(2) 農林漁業団体の組織強化

- 私有林の整備や県産木製品の販売促進等の新たなニーズに対応した事業展開について支援する。
- 安全衛生用具の購入にかかる支援等により林業従事者の安定した雇用環境の整備に努める。



施策展開5 成長産業化の土台となる農林水産業の基盤整備

1. 自然環境に配慮した森林及び林業生産基盤の整備

(1) 自然環境に配慮した森林施策

- 収穫伐採については、小面積伐採や択伐等の伐採方法の検討を行う。
- やんばる3村においては、「やんばる型森林業の推進-施策方針-」に基づき森林施策を実施する。
- 本県特有の人工林については、除伐や間伐等の保育管理の森林施策方法の改善に取り組む。

(2) 亜熱帯海洋性気候を生かした早生樹等による森林づくり

- 開発跡地等を活用しながら、早生樹種による短伐期施策を推進し、森林資源の循環利用を図る。

(3) 森林の持つ多面的機能を持続的に発揮するための適正な森林整備

ア 多面的機能を持続的に発揮するための森林の適正管理

- 森林の持つ多面的機能を高度に発揮させるため、保安林・林地開発許可制度の適正な運用を図る。
- 盛土規制法については、技術的基準を遵守させ、制度の厳正な運用を行い災害の未然防止を図る。

イ 災害に強い県土づくりを推進

- 荒廃山地等の復旧・予防対策など、災害に強い県土づくりに向けた治山対策を推進する。
- 潮風害等から民家・田畑等を守るため、自然環境に配慮しつつ、防災林の造成を推進する。
- 治山・林道施設については、老朽化対策・機能強化に取り組み、適切な維持管理・更新等を進める。

(4) 森林病虫害の生態特性等に応じた防除

ア 松くい虫

- 保安林等の公益的機能の高い松林である「保全松林」を中心とした重点的な防除を実施する。
- 「その他松林」については、被害木の伐倒駆除、貴重な松は薬剤の樹幹注入による対策を行う。

イ 松くい虫以外の森林病虫害

- キオヒエダシヤクは、被害森林の多面的機能等を勘案して防除を実施する。



施策展開6 魅力と活力ある農山漁村地域の振興と脱炭素社会への貢献

1. 地域資源の活用・域内循環の創出による地域活性化（各種ツーリズムの推進）

(1) 森林の総合利用の推進

- 森林インストラクターやコーディネーターなどの人材の育成を支援する。
- やんばる3村において、インストラクターやガイドの育成等を支援する。

(2) 森林公園等の整備

- 県民に対して森林、林業の理解を深めるため、県内各地の森林公園を活用し普及啓発を行う。
- 沖縄県県民の森は、施設老朽化対策等のコスト縮減・平準化ため、計画的・効率的な管理に取り組む。

